

【ら】 ライズタイム いまスロー地震が注目されている

海溝型地震では、プレートの境界を挟んで、上盤の陸のプレートと下盤の海洋プレートがずれ動くわけですが、ずれが始まって終わるまでの時間をライズタイムといいます。このあいだに上盤と下盤の食い違った量がすべり量となります。普通の海溝型地震でのすべり速度は1m/sのオーダーですが、それが0.1m/sあるいはそれ以下というようなすべり速度が小さい地震が起きることがあります。1896年の明治三陸地震や1605年の慶長の地震が、このスロー地震であったといわれています。このような地震は、地震波をあまり出さないのに海底での地殻変動で津波を起こしますので津波地震とも言われています。最近も、このような地震が多く観測されています。津波は、音なしでやってくることが多いので、警報に従って行動することが大事で、自分に都合の良い判断は禁物です。

【む】 “虫の目情報”は災害発生時には重要な行動指針になる

災害が発生すると行政は、体制の立ち上げ、被害状況の把握、被害の拡大防止、復旧への準備、被害の回復というように平常時とは異なる対応が即時に求められます。その中でも、重要なことは被害状況の把握です。まずは概要を把握する必要がありますので、規模の大きさや予測、現状把握するためにヘリコプターや航空機といった上空からの調査が行われます。これを“鳥の目”情報といいます。一方、119番通報や目撃者情報やスマホ写真・動画といったものを“虫の目”情報といいます。両方の情報が収集・分析されて次のステップを進行させるのにも重要なこととなります。東日本大震災での経験からしても、情報処理のために応用能力の高い人材の確保と、ツールの開発が不可欠なことになっています。

【う】 牛を馬に乗り換えてもうまくいかない、都合の良いことは後でお返しされる

災害がまじかになってくると、様々な情報が入ってきます。情報は切羽詰まってくるごとに不正確な単なるうわさに近いものまでが混ざってきます。大事なことはこのような情報を適切に判断していくことです。その時に、冷静になってその情報は支障になるものか、自分に都合良く解釈していないか、などを峻別することです。そうでないと、まさか自分が災害に巻き込まれることは絶対はない、と信じてしまうこともあります。これらのことを避けるには、正しい知識を積み上げておくことが基本となり、周辺の人とも情報を交換しながら判断し、行動することが必要になります。災害時は、次々に状況が変化して、頭の中が整理されずに行動だけが先行することになりがちですので、先ず心がけたいことは、「なんのために」を常に考えることだと思います。